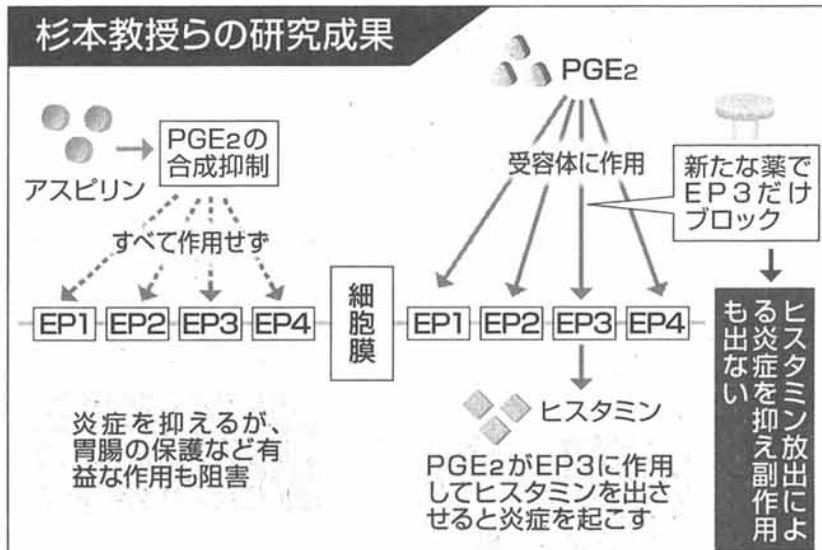


科学



炎症起きる仕組み解明 抑制薬開発に手掛けたり

炎症起きる仕組み解明

熊本大学院生命科学
研究部（薬学生化学分
野）の杉本幸彦教授（48）
と、京都大学院の森本
和志博士（28）らのグル
ープが、脂質の一種「プロ

杉本教授らは、遺伝子
を操作して、受容体をそ
れぞれ欠損させたマウス
を作り、PGE₂と反応
して炎症を起こす受容体
EP3を特定した。さら

に詳しく調べたところ、
PGE₂は免疫反応など
の役割を持つ「マスト細
胞」のEP3に作用して、
アレルギーの原因となる
ヒスタミンを放出させ、炎
症を起こすことが分かつ

う。
約10年前、細胞表面に
あるEP1～4という四
つの受容体が特定され
た。ここにPGE₂が結
び付いて、発熱や炎症、
胃腸の粘膜保護などの働
きが起きることが分かつ
たが、受容体と作用との
関係は不明だった。

杉本教授は、「アスピリ
ンは、PGE₂の合成を
阻害する結果、体に有益
な作用も同時に阻害して
いる。EP3だけを遮断す
る薬ができるれば、副作
用がない抗炎症薬を作れ
る」と話している。

杉本教授らはEP3を
阻害する化合物を既に作
つており、アトピーの治
療などにも効果がないか
調べているという。

杉本教授は「アスピリ
ンが皮膚の細胞
に作用して炎症を起こ
すメカニズムを解明。か
ぶれやアトピーなどに効
果的な新薬の開発につな
がる可能性があるとい
た。

（山口尚久）